

# めん羊放牧で山づくり

めん羊は中型で扱いやすく、肉から毛、乳など様々な用途に利用できる有用な家畜です。牛や馬などに比べると食草に対する嗜好性の幅が広く、野草を根元からきれいに食べます。こうしためん羊の性質を利用して、針葉樹の単相林を広葉樹が混ざった多様な混交林へと誘導する試験を北海道立畜産試験場中小家畜飼養科と共同で行いました。試験区はクマイザサが繁ったカラマツ防風林(66年生、写真-1)の一部をフィールドフェンスで囲って設定し、その中にサフォーク種の去勢雄を2003、2004年それぞれの春と夏に1回ずつ合計4回放牧しました。

試験区内のクマイザサはめん羊に食べられて激減し(写真-2)、放牧後に再生したクマイザサも小型化しました。また、めん羊はオオイタドリ、アザミ類、ヨモギ類など下草も残さず食べました(写真-3)。さらに、クマイザサが減って明るくなった林床には、ヤチダモ、カラマツ、ヤマグワ、ハルニレ、エゾヤマザクラ、キタコブシ、ミズナラ、イタヤカエデなど様々な樹木が芽生えてきました(写真-4)。このように、めん羊放牧には林内環境を改善し、天然更新を助ける効果があることがわかりました。また、放牧によってクマイザサが衰退した場所には苗木を植え込むことができるようになりました(写真-5)。

一方、植栽後にめん羊を放牧すると下刈り効果がありますが、広葉樹苗木に対しては食害が発生することがあります。まだ残された課題があるものの、めん羊の林内放牧を利用すれば、これまで未利用だった森林のバイオマスや空間などを活用しながら環境に負荷をかけずに混交林づくりを行っていただけるかもしれません。  
(病虫科、道東支場)



写真-1 めん羊放牧試験を行ったカラマツ防風林



写真-2 放牧後の放牧区(フェンス右側)と対照区(左側)



写真-3 オオイタドリなどを積極的に食べるめん羊



写真-4 林床に発生した芽生え(上:ヤチダモ、下:カラマツ)



写真-5 放牧区内に樹下植栽したアカエゾマツ苗木

林業試験場 本 場 TEL 0126-63-4164 FAX 0126-63-4166  
道南支場 TEL 0138-47-1024 FAX 0138-47-1024  
道東支場 TEL 0156-64-5434 FAX 0156-64-5434  
道北支場 TEL 01656-7-2164 FAX 01656-7-2164  
ホームページ <http://www.hfri.pref.hokkaido.jp/>

発行年月 平成19年8月  
発行 北海道立林業試験場  
〒079-0198 美幌市光珠内町東山